

Ⅱ 台座組立、山車飾り付け

曳きまし当日は早朝より台座の組立と飾り付けを行います。

山車飾り付けの順序

- ① 修羅に俵を載せ、前後左右のバランスを調整する
- ② まゆ玉をつけた栗の木を俵に打ち込んだ芯棒に縛り付ける
- ③ 幣竹、鏡竹を立てる
- ④ 串餅を取り付ける
- ⑤ 鳥居、酒樽、太鼓を飾る
これは江戸時代の山車を習ったものです
- ⑥ 杉葉で俵の上部を覆う
- ⑦ 松枝を挿し、しめ縄を山車にめぐらし、紙垂(しで)を取り付け、神を迎える準備を整える

完成した山車の前に祭壇を設け、豊作に感謝する供え物を並べ、約半年に渡る蓬莱祀の準備が終わります。



◆ 組み立て

組立の順番や飾り付けする物と配置には経験と知識が求められ、出来栄を左右します。山車の巡行時に、栗の木が電線に触れない高さに調整します。



岡太神社の鳥居前での神事。
大人も子供も参列して行われる。

出発の式典

2月11日の午後1時から神事が営まれます。この式典には準備を進めた蓬莱祀保存会・敬成会・壮年会・体育協会・花筐小PTAおよび岡太神社総代・区長・はながたみ子供太鼓に加え、近年は堂年寄りが堂の講の代表として参列するようになりました。住民の方も大勢参列して宮司の祝詞を静かに賜ると、辺りは神聖な空気に包まれます。



堂年寄りとは岡太神社の氏子男児が加入する宮座組織の「堂の講」の長老です。年齢順に順番が定められる公平な組織で、かつて蓬莱祀を堂年寄りが運営していた時代もあって堂年寄りを大切にしています。